

1. 科目名（単位数）	心理的アセスメント（4 単位）	3. 科目番号	PSMP1110
2. 授業担当教員	財満 鎮人		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「臨床心理学概論」が履修済、もしくは併修中であることが望ましい。		
7. 講義概要	臨床心理学において、必須の知識である必要な心理査定の技術の基礎を習得する。担当教員が選定した代表的な心理検査について、1. 理論的背景、2. 実施方法、3. 結果の整理方法、4. 解釈方法、5. 利用上の注意点、6. 適応範囲と限界などを理解することを目的とする。心理検査法の基礎的な事項（理論や施行法）を身に付けるために、演習を重視する。 具体的には、 1. 担当箇所の心理検査をレジュメにまとめて、プレゼンテーションを行う。 2. 検査者・被検査者体験、心理検査の事例等に関してグループディスカッションを行う。 3. 実施した心理検査に関して、レポートを提出する。 といった方法で、各検査法の特徴と臨床現場での使用の仕方を体験的に学ぶ。 また、時間がゆるせば、1. 査定法の選び方、2. 環境の整え方、3. 結果の報告やフィードバックの仕方 などについても検討する。		
8. 学習目標	心理査定法の中でも、特に心理検査法に焦点をあてる。演習を行うことによって心理査定の基礎的な技術を身につけ、活用できる。		
9. アサインメント（宿題）及びレポート課題	・講義前には必ず該当部分に目を通し、疑問点を明確にしてくる。 ・5回レポートを提出する（A4用紙1枚、800字以上）。 1. YGの自己分析 2. TEGの自己分析 3. SCTの自己分析 4. バウムテストの自己分析 5. 風景構成法の自己分析		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】澤田丞司著『心理検査の実際』新興医学出版社、2004。 【教 材】必要に応じて資料を用意し活用する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. ディスカッションに参加し、自分の意見を述べることができる。 2. 心理検査の概要について理解を深め、適切な発表ができる。 3. 心理検査について学んだことについて、明瞭かつ論理的な文章で説明ができる。 ○評定の方法 受講態度や討論への参加といった授業に取り組む姿勢、心理検査に関する発表、課題レポート等を総合して総合的に評価する。 1. 受講態度や討論への参加といった授業に取り組む姿勢 30% 2. 心理検査に関する発表 30% 3. 課題レポート 40%		
12. 受講生へのメッセージ	・できるだけ心理検査全般を取り上げながら、いくつかを実際にペアで実施し、その心理検査をどのように整理し、分析からなにが分かるのかを体験する。 ・また、可能なかぎり実習的な要素を取り入れて実践的な力を身につけてもらう。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言すること。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為（携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等）をしないこと。		
13. オフィスアワー	原則週に 2 コマを第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション（講義概要の説明） 【心理検査とそのなりたち】 ・心理検査の定義 ・心理検査の歴史	事前学習	テキスト pp.1～11 を読んで、心理検査のなりたちについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	講義で強調した心理検査について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 2 回	(心理検査の利用上の問題) ・心理検査の種類と特徴（能力検査、質問紙法、作業検査法、投影法） ・心理検査の選び方（妥当性、信頼性、標準化、臨床における心理検査） ・心理検査実施上の留意事項（心理検査の実際目的、検査場面をめぐる問題、テスト・バッテリー、結果の整理と読み方）	事前学習	テキスト pp.12～25 を読んで、心理検査の種類・特徴の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「妥当性」「信頼性」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 3 回	【心理検査の実際】 ・田中ビネー知能検査（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・WAIS 成人知能検査法（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・WPPSI 知能診断検査（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方）	事前学習	テキスト pp.26～54 を読んで、ビネー式とウェクスラー式の特徴と違いについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「精神年齢」と「偏差 IQ」の違いについてについて参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

第 4 回	・ WISC 知能検査法（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ WISC の実施	事前学習	テキスト pp.55～66 を読んで、WISC 知能検査法の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	言語性検査と動作性検査の検査結果（VIQ、PIQ）と全検査結果（FIQ）の関係について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 5 回	・ WISC の事例検討	事前学習	WISC の事例資料を事前に目を通しておく。
		事後学習	下位検査から読み取れることについて参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 6 回	・ S-M 社会生活能力検査（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ 遠城寺式乳幼児分析的発達検査法（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ 新版 K 式発達検査（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ K-ABC 心理・教育アセスメントバッテリー（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方）	事前学習	テキスト pp.74～80 を読んで、精神発達検査の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「継次処理」「同時処理」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 7 回	・ YG 性格検査（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ YG の実施	事前学習	テキスト pp.81～89 を読んで、YG 性格検査の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「尺度」と「因子」の関係について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 8 回	・ YG の分析、レポート作り	事前学習	自分の YG の結果についてテキストで分かる範囲内で調べておく。
		事後学習	返却されたレポートのコメントを読み、再度分析を確認し理解を深める（再提出も可）。
第 9 回	・ MMPI（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ MAS（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ MAS 実施	事前学習	テキスト pp.90～99 を読んで、MMPI の 10 尺度について理解しておく。
		事後学習	MAS の結果について振り返り、自己理解を深め、対処方法を考える。
第 10 回	・ CMI（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ SDS 自己評価式抑うつ性尺度（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ SDS 実施	事前学習	テキスト pp.100～107 を読んで、CMI のスクリーニング機能について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	SDS の結果から自分の状態を考え、対処方法を検討する。
第 11 回	・ TEG（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ TEG 実施	事前学習	テキスト pp.108～118 を読んで、交流分析の基本概念について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「5 つの自我状態」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 12 回	・ TEG の分析、レポート作り	事前学習	自分の TEG の結果についてテキストで分かる範囲内で調べておく。
		事後学習	返却されたレポートのコメントを読み、再度分析を確認し、理解を深める（再提出も可）。
第 13 回	・ TEG の事例検討	事前学習	資料に事前に目を通しておく。
		事後学習	TEG のパターン分類について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 14 回	・ 内田クレペリン精神検査（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方）	事前学習	テキスト pp.119～126 を読んで、クレペリンの検査の特徴について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「スクリーニング」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 15 回	・ ベンダー・ゲンシュタルト検査（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ ベンダー・ゲンシュタルト検査実施	事前学習	テキスト pp.127～134 を読んで、ベンダー・ゲンシュタルト検査の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「パスカル・サッテル法」と「コピッツ法」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 16 回	・ ロールシャッハ検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方	事前学習	テキスト pp.135～147 を読んで、ロールシャッハの実施法について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「エクスナー法」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

第 17 回	・ TAT（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方）	事前学習	テキスト pp.148～155 を読んで、TAT の検査概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	マレーの「欲求・圧力理論」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 18 回	・ P-F スタディ（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方）	事前学習	テキスト pp.156～165 を読んで、P-F スタディの検査概要を理解し、TAT との違いについて検討し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「アグレッションの方向性と型」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 19 回	・ SCT（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ SCT 実施	事前学習	テキスト pp.166～171 を読んで、SCT の検査概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	分析の観点「力動的側面」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 20 回	・ SCT の分析、レポート作り	事前学習	「分析方法」についてテキスト pp.169～171 をよく読んでおく。
		事後学習	返却されたレポートのコメントを読み、再度分析を確認し理解を深める（再提出も可）。
第 21 回	・ バウムテスト（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ バウムテスト実施	事前学習	テキスト pp.172～177 を読んで、バウムテストの概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「空間象徴図式」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 22 回	・ バウムテストの分析、レポート作り	事前学習	「分析方法」についてテキスト pp.174～177 をよく読んでおく。
		事後学習	返却されたレポートのコメントを読み、再度分析を確認し理解を深める（再提出も可）。
第 23 回	・ バウムテストの事例検討	事前学習	資料に事前に目を通しておく。
		事後学習	バウムテストの解釈について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 24 回	・ 風景構成法（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ 風景構成法実施	事前学習	風景構成法の資料に事前に目を通しておく。
		事後学習	風景構成法の事例について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 25 回	・ 風景構成法の分析、レポート作り	事前学習	風景構成法の資料の分析方法の部分に目を通しておく。
		事後学習	返却されたレポートのコメントを読み、再度分析を確認し理解を深める（再提出も可）。
第 26 回	・ 動的家族画（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ 動的家族画実施 ・ HTP（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ HTP 実施	事前学習	動的家族画・HTP の資料を読んで概要を理解しておく。
		事後学習	動的家族画か HTP のいずれかの事例について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 27 回	・ MSSM 検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ MSSM 実施	事前学習	MSSM の資料を読んで概要を理解しておく。
		事後学習	MSSM の事例について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 28 回	・ 改訂長谷川式簡易知能評価スケール（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方） ・ MMSE（検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方）	事前学習	改訂長谷川式簡易知能評価スケールの資料を読んで概要を理解しておく。
		事後学習	「認知症」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 29 回	・ 補足（アンケート調査法、事例研究法、面接法など）	事前学習	アンケート調査法、事例研究法、面接法などの補足資料を読んで概要を理解しておく。
		事後学習	興味をもった研究法について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 30 回	・ まとめ（用語・概念を中心に復習する）	事前学習	テキストに出てきた用語について分からないものを確認する。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。